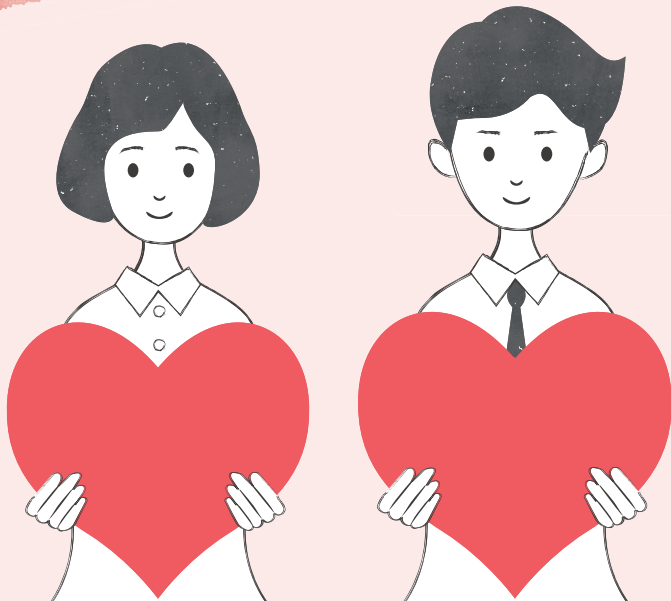


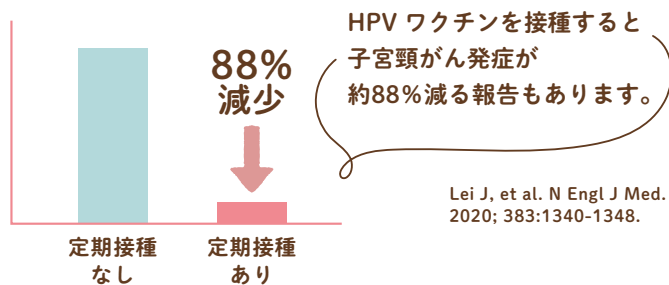
子宮頸がんは、HPVワクチンで予防できます。



HPV（ヒトパピローマウイルス）は、子宮頸がんだけでなく、肛門がん・陰茎がん・中咽頭がんなど、男女ともに関わるウイルスです。

海外では HPV ワクチン接種率が 80%を超える国もあります。早い時期の接種ほど、高い予防効果が期待できます。

浸潤子宮頸がんの予防効果



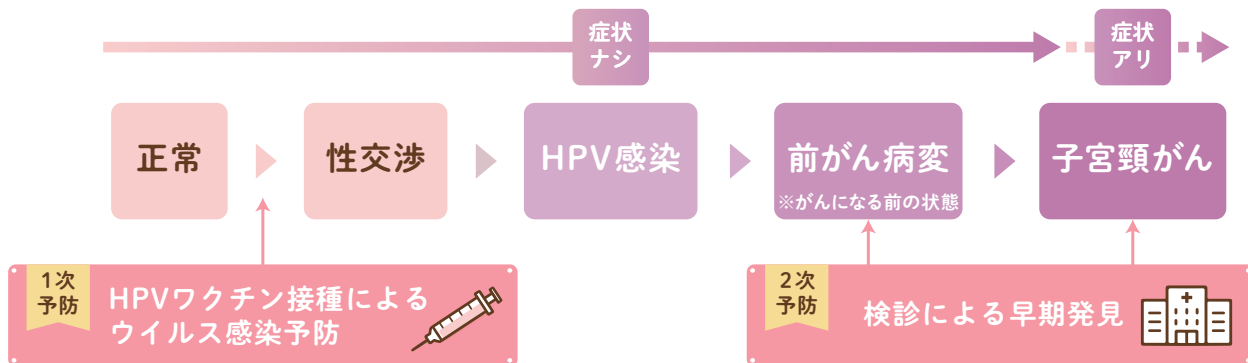
HPV ワクチンを接種した女の子の割合（2022年）

カナダ	86.0%
オーストラリア	80.3%
イギリス	67.3%
アメリカ	63.8%
ドイツ	53.4%
フランス	41.5%
イタリア	38.8%
日本（2023年）	13.1%

全世界で 90% の接種で子宮頸がんを排除できる可能性があります。

厚生労働省 定期の予防接種実施者数
厚生労働省 HPV感染症リーフレット（詳細版）

HPV ワクチン接種だけでなく、定期検診による早期発見も大切です



定期接種対象者

小学6年生～高校1年生相当の女性

女性の定期接種（公費接種）の期間は、**高校1年生の3月31日まで**です。

高校1年生の9月までに1回目の接種を済ませることをおすすめします。



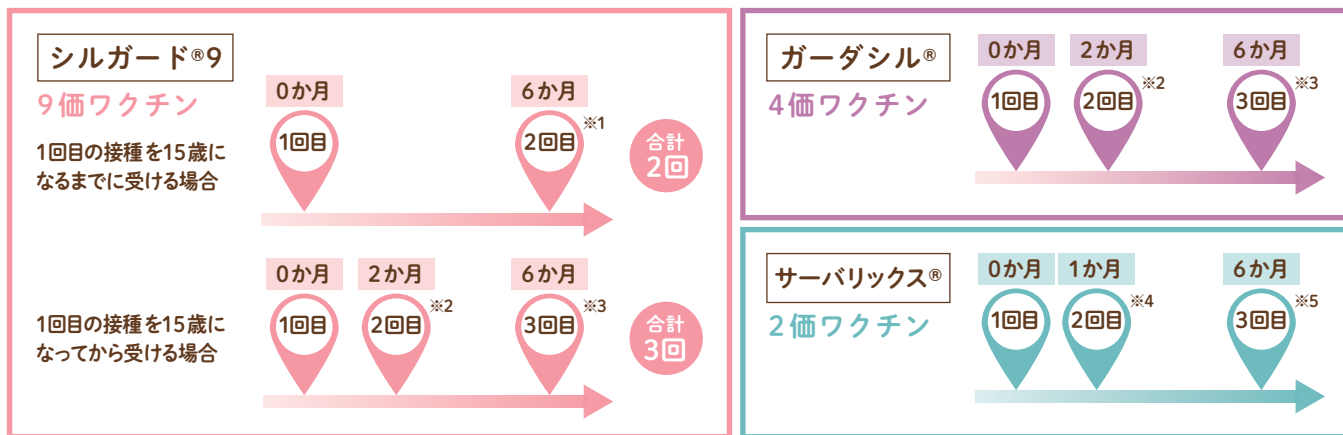
HPV ワクチン接種の流れ



ワクチン接種スケジュール

初回→2か月後→6か月後の計3回接種が必要です。

接種の際は、副反応や学校行事の時期を考慮し、2回目・3回目も含めて余裕をもったスケジュール計画をおすすめします。



3種類いずれも、1年以内に接種を終えることが望ましい。

※1：1回目と2回目の接種は、少なくとも5か月以上あけます。5か月未満である場合、3回目の接種が必要になります。

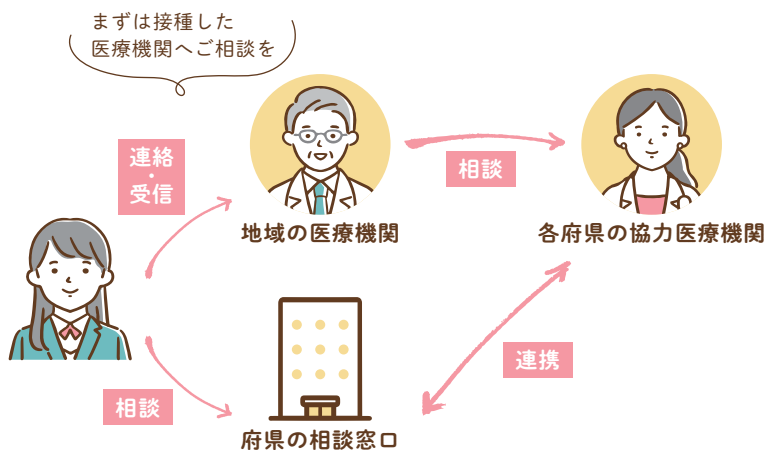
※2・3：2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の2か月後と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上（※2）、3回目は2回目から3か月以上（※3）あけます。

※4・5：2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の1か月後と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上（※4）、

3回目は1回目から5か月以上、2回目から2か月半以上（※5）あけます。

※6：令和8年度からサーバリックス及びガーダシルを定期接種で用いるワクチンから除き、シルガード9のみが定期接種で用いるワクチンとなる予定です。

HPVワクチン接種後の症状に関してのご相談は以下をご参照ください。



- HPV ワクチン接種後には、接種部位の痛みや腫れ、赤みなどが起こることがあります。まれですが、重大な副反応（ギラン・バレー症候群、血小板減少性紫斑病、急性散在性脳脊髄炎（ADEM）、その他の副反応）が起こることがあります。
- HPV ワクチン接種後に気になる症状が出現した場合は、まずは接種を受けた医師・かかりつけの医師にご相談ください。各都道府県で選定された協力医療機関の受診については、接種を受けた医師・かかりつけの医師にご相談ください。
- HPV ワクチン接種後に出現した症状に関して、不安や疑問、困ったことがあるときは、お住まいの府県に設置された相談窓口にご相談ください。